

平成30年度病虫害発生予察予報第11号（2月）

平成31年2月6日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(中央)</u> 、 <u>平年並(中西)</u> 、 <u>やや少(西)</u> <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、 <u>やや少(中西)</u> <u>多(西)</u> 、 <u>平年並(中央)</u> 、 <u>やや少(中西)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、 <u>やや少(西)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央、西)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(東、中央)</u> 、 <u>やや少(西)</u> <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東、西)</u> <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、 <u>平年並(西)</u> <u>平年並(東)</u> 、 <u>やや少(西)</u> 、 <u>少(中央)</u> <u>多(中央)</u> 、 <u>平年並(東)</u> 、 <u>やや少(西)</u>
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(中央)</u> 、 <u>平年並(中西)</u> 、 <u>やや少(東)</u> <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、 <u>平年並(中西)</u> <u>多(中央、中西)</u> 、 <u>やや少(東)</u> <u>やや多(中央)</u> 、 <u>やや少(東、中西)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、 <u>やや少(東)</u>
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> やや少(中央) 平年並(中央) 少(中央)

※ () 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 1月31日発表）

（2月2日から3月1日までの天候見通し）

<特に注意を要する事項>

期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	30		30	40
		日照時間	40		30	30

<気温経過の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80	
2週目		20		40	40
3～4週目		20		30	50

<予報の対象期間>

1ヶ月：2月2日（土）～3月1日（月）

1週目：2月2日（土）～2月8日（金）

2週目：2月9日（土）～2月15日（金）

3～4週目：2月16日（土）～3月1日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：やや多(中央部)、平年並(中西部)、やや少(西部)

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年並、中西部でやや少、西部は少なかった。発病程度は中西部で平年並で、その他の地域は平年よりもやや低～低くかった。

(2)2月の気温は高め、降水量は多めと予想されているため、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中央部)、やや少(中西部)

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりもやや多く、中央部で平年並、中西部では少なかった。発病程度は県中央部と西部でやや高かったが、中西部は低かった。
- (2)2月の気温が高めと予想されているため、既発ほ場中心に病勢が進展し、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(西部)、平年並(中央部)、やや少(中西部)

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られ、県西部では発生面積が平年よりもやや多く、発生程度も高かった。その他の地域は発生面積、程度とも平年以下であった。
- (2)2月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に密度が高まり、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部)、やや少(西部)

根 拠

- (1)1月の発生面積は県中西部で平年よりもやや多く、中央部で平年並、西部で少なく、発生程度は中央部で高く、中西部でやや高く、西部では低かった。
- (2)巡回調査では県中央部、中西部で先月以降も新たな発生が見られている。また、媒介であるミナミキイロアザミウマの発生面積は中西部で平年よりも多く、その他の地域で平年並であった。
- (3)2月の気温は高めと予想されており、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に本病の発病も増加するものと考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部、西部)

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で多く、その他の地域では平年並、発生程度は中西部、西部で平年よりも高く、中央部では低かった。

(2) 2月の気温は高めと予想されており、本虫の密度は高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(東部、中央部)、やや少(西部)

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部と中央部で平年並、西部で平年よりも少なく、発病程度は各地域とも平年より低かった。

(2) 2月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部、西部)

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。全般的には平年並の発生であったが、県中央部では平年に比べ発生面積は多く、発生程度も高かった。

(2) 2月の気温は平年よりも高く、降水量も多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部)、平年並(西部)

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られ、全般的に発生面積は平年並、県中央部では平年に比べやや多く、発生程度もやや高かった。

(2) 2月の気温は平年よりも高く、降水量も多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並(東部)、やや少(西部)、少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では県東部と西部で発生が見られたが、発生面積は少なく、発生程度も低かった。
- (2)2月の気温は高めと予想されていることから、既発ほ場を中心に密度が高まり、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)、平年並(東部)、やや少(西部)

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られ、全般的に発生面積は平年よりもやや少なめ、発生程度は平年並であったが、県中央部ではやや多かった。
- (2)2月の気温は高めと予想されていることから、既発ほ場を中心に密度が高まり、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(中央部)、平年並(中西部)、やや少(東部)

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、どの地域も発生面積、発病程度とも平年以下であった。
- (2)2月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部)、平年並(中西部)

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で多かったが、他の地域は平年並以下であった。発病程度はどの地域も低かった。
- (2)2月の気温は高く、降水量は多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(中央部、中西部)、やや少(東部)

根 拠

- (1)巡回調査では県中央部、中西部で発生が見られた。両地域とも平年に比べ発生面積は多く、発生程度も高かった。
- (2)2月の気温は平年よりも高く、降水量も多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中央部)、やや少(東部、中西部)

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られた。県中央部では発生面積は平年並、発生程度はやや高め、東部、中西部は発生面積は平年よりも少なかったが、中西部の発生程度は高かった。
- (2)2月の気温は高めと予想されていることから、既発ほ場を中心に密度が高まり、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られ、発生面積は中西部で平年よりもやや多く、中央部で平年並、東部では少なく、発生程度は全般的に低かった。
- (2)2月の気温は高めと予想されていることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では発生面積が多く、発病程度も高かった。
- (2)2月の気温は平年よりも高く、降水量も多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では平年よりも少なめの発生であった。下葉中心の発生であり、発病程度も低かった。
- (2)2月の気温は平年よりも高く、降水量も多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では、先月以降、新たな発生は見られなかった。
- (2)2月の気温は高めと予想されているが、巡回調査では本病の媒介虫であるタバココナジラミの発生は見られず、この時期の野外から施設内への侵入はないことから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査での発生は見られなかった。
- (2)この時期、野外から施設内への侵入は無いため、現在、発生が見られていないほ場では新たな発生は無いと考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.